

国際女性デー — ミモザに込められた希望、 未来は私たちが創る

リポアル堀井なみの

今年も各地でイベントを企画する方々があり、国際女性デーに出会う人びとがいると思うと、うれしくなります。私の出会いは、約10年前、ノルウェー在住時に友人の誘いで参加した「女性デーランチ会」です。約200名の女性が集まったエネルギーあふれる会に励まされました。国際女性デーを象徴する花はミモザです。帰国後、2018年3月に「政治分野における男女共同参画推進法」成立前の院内集会に参加した際、ミモザ色を身につけた国会議員や地方議員を務められた方々を中心となり、法案成立に向けてご尽力されている姿を目の当たりにしました。それ以来ミモザの花を見るたびに、多くの先人たちが歩んできた道を思います。

日本で女性学、ノルウェーで北欧のジェンダー平等と草の根活動の大切さを学びました。帰国後、言葉にできないモヤモヤを抱えていた頃に、フランスで女性の権利獲得の歴史をコメディで描く演劇と出会い、その作者と日本の100年の女性史を題材にした舞台『ミモザウエイズ』を制作しました。タイトルには、ミモザの花と「一人ひとりのそれぞれの人生」という意味が込められています。70名の女性へのインタビューと専門家の監修を基礎にした制作を通じて、私のモヤモヤは可視化されました。どうしてもならない現実に圧倒されることもありますが、それでも自分にできることを進めていこうと、朗読や講演、上映会を全国で展開しています。国外においても、2024年、国連女性差別撤廃委員会の日本審議が行われた夜に、国際・開発研究大学院の共催、国際女性の地位協会及び日本女性差別撤廃条約 NGO ネットワーク後援のもと、ジュネーブで上映会を開催しました。幅広い年齢層の国際的な参加者が集まり、委員会の秋月弘子委員やシュルツ前委員からコメントを頂戴する、意義深い会となりました。

4月10日は「女性参政権記念日」、7月25日は条約が国内で効力を発生した「女性の権利デー」です。これら記念日は行動を起こす機会を与えてくれます。ジェンダー平等を実現する未来へ向けて、ともに歩んでいきましょう。



@picturesbytok

PROFILE

りぼあるほりいなみの：日仏女性の人権架け橋ミモザ実行委員会代表。国際女性の地位協会理事。2024年 W7 イタリア・2023年 W7 日本アドバイザー。共訳『クロコダイルーワニみたいに潜む日常のハラスメントと性差別、そしてその対処法』（かもがわ出版、2022）。『ミモザウエイズ』企画・製作・翻訳者。同作は赤松良子ジェンダー平等基金に採択され、NWEF フォーラムをマイルストーンに約4年をかけて制作された演劇。